

キュウリの匂いがするよ！

福島市立まつかわ西幼稚園（福島県福島市）

[5歳児]

<保育者の願い>

自分たちで野菜を植えることや、収穫することを楽しみにしているが、その一方で、植えてから収穫するまでの間には関心が薄くなってしまいう幼児も多い。収穫を楽しむだけでなく、自分たちで野菜を育てる中で、どのように生長したり変化したりしていくのかに気付いて欲しい。

子「先生！ナスの赤ちゃん、できてるよ！」

保「本当だ！みんなの体と大きさを比べたらどのくらいかわかるかな？」

子「このナスは、僕の親指と同じくらいの大きさみたいだ！」

子「このキュウリは、僕の手と同じくらいだよ！」

翌日・・・

子「昨日のキュウリ、僕の顔くらいになったー！」

子「ナスはまだ僕の親指くらいのままだよ」

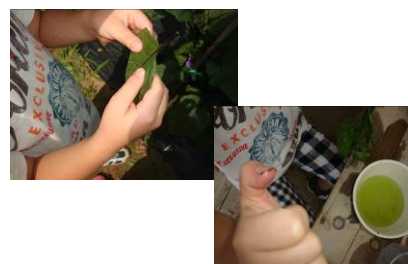


子「あっ、ナスの葉っぱには紫の線が入ってるよ！」

保「じゃあお茶を作る時みたいにしたら、ナスは紫色のお茶になるのかな？」

子「やってみたい！」

そこで、ナスとキュウリの葉っぱを使ってお茶作りをすることになった。ナスの葉っぱからは紫色は出ず、他の野菜と同様に緑色のお茶になった。



黙々とキュウリの葉っぱをすり潰していたA児が、「先生！このお茶からキュウリの匂いがする！」と見せに来た。

実際に匂いを嗅いでみると、確かにキュウリの匂いがしたので、「すごい！本当にキュウリの匂いだ！じゃあ畑の葉っぱからもキュウリの匂いがするのかな！」と保育者が投げかけて一緒に畑に向かい、実っている葉っぱの匂いも嗅いでみた。

子「うーん、キュウリの匂いしないね」

子「ナスもしないよー」

実っている葉っぱからは野菜の匂いはせず、すり潰すと匂うことがわかった。



A児はナスとキュウリの結果から「匂い」に関心が向き、今度はピーマンとトマトも同様に試してみることにした。

A児「先生、わかったよ！！」

ピーマンとトマトはすり潰しても、畑に生育している葉っぱからも、その野菜の匂いがすることがわかった。

降園時に、A児が続けて実験していることを学級で伝える場を設け、みんなにも関心が広がるようにする。



<考察>

みんなで畑の様子を見に行き、自分の体の一部と野菜の大きさを比べたり、“実”だけでなく葉っぱなど他の部分にも目を向けたりすることで、野菜の生長や変化の過程にも興味をもつことができた。

友達と一緒に野菜の大きさを測ったり、比べたりすることで野菜の生長を観る楽しさを味わうことができた。

また、友達の気づきが互いに刺激となって、さらに試したり観察を続けたりしていく気持ちにつながった。

みどころ

野菜の生長の様子を、「指と同じくらい」「顔くらい」という子どもならではの確かめ方で楽しみ、“匂い”“色”、さらには“すり潰すと・・・”など、様々な方法で、野菜の特徴を捉えています。人から教わったり、映像で見たりして獲得する知識とは違い、自分で「何だろう？」「もしかしたら？」と不思議や疑問に思ったことについて、その子なりの方法で探索し、じっくりと確かめていく過程で「科学する心」が育まれていくことが期待できます。